

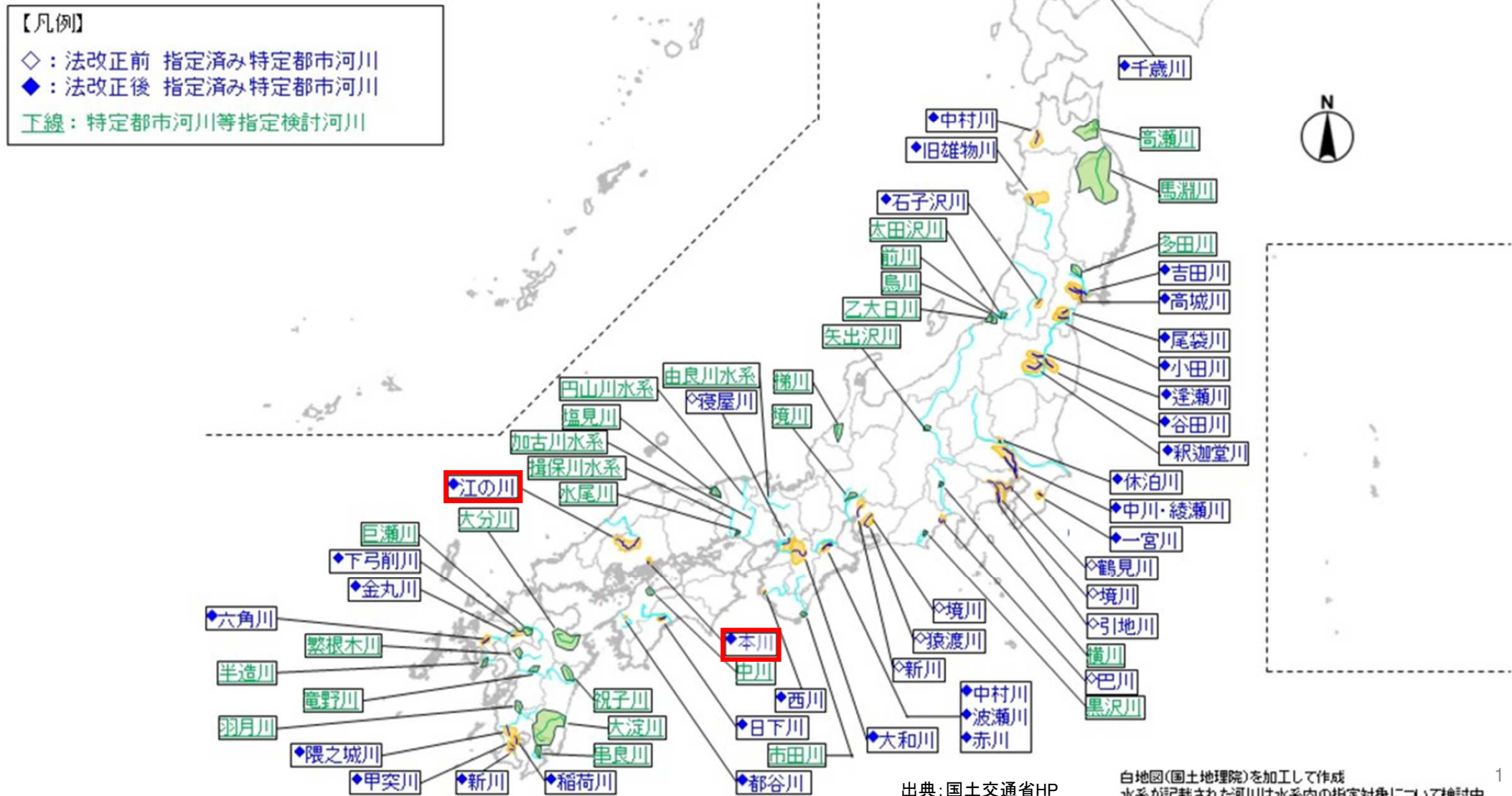
流域治水に係る情報提供

令和7年3月19日
本川流域水害対策協議会

特定都市河川の指定状況

特定都市河川の実施状況

特定都市河川は、全国で30水系382河川が指定されています(下図:令和7年1月28日時点)
(参考:令和6年3月12日時点、23水系271河川)



特定都市河川の先進事例

全国初

貯留機能保全区域を指定しました

- ◆特定都市河川浸水被害対策法が令和3年5月に改正され、新たに土地利用対策として貯留機能保全区域制度が創設されました。
- ◆貯留機能保全区域とは、その土地が元来有している遊水機能(貯留機能)を可能な限り保全していくことを目的としており、浸水被害の拡大を抑制する効用があると認められる区域を貯留機能保全区域として県が指定できる制度です。
- ◆貯留機能保全区域の指定にあたっては、土地所有者の同意が必要となりますが、川西町唐院(とういん)地区(約3.7ha)と田原本町西代(にしんだい)地区(約11.6ha)において、遊水機能の保全に向け土地所有者の方の同意を得ることができたことから、本日(令和6年7月30日)、全国で初めて両地区を「貯留機能保全区域」に指定しました。

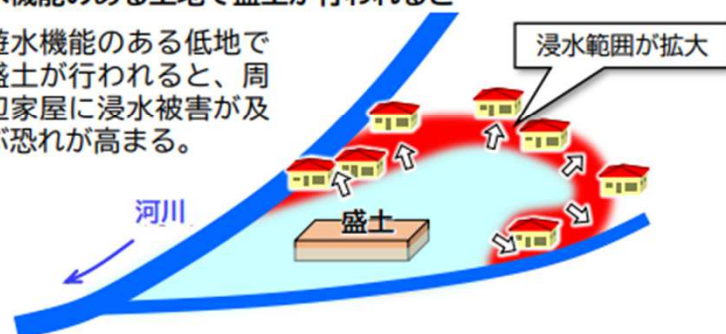
遊水機能保全の必要性(イメージ)

遊水機能のある低地は、農地等で利用しながら保全し、その周辺に住居を構えて生活してきた。



遊水機能のある土地で盛土が行われると…

遊水機能のある低地で盛土が行われると、周辺家屋に浸水被害が及ぶ恐れが高まる。



貯留機能保全区域に指定されることで、盛土等による浸水範囲の拡大が抑制され、その周辺の地域を浸水被害から守ります。

貯留機能保全区域に指定された区域では

規制

貯留機能保全区域に指定された区域内では、盛土等の貯留機能阻害行為を行おうとする場合は「届出」が必要

また、知事は必要に応じて、助言又は勧告を行うことができます

支援策

貯留機能保全区域の指定を受けている土地に係る固定資産税等について、指定後3年間、課税標準を市町村の条例で定める割合に軽減

流域治水の推進

特定都市河川の先進事例

位置図



川西町唐院(とういん)地区



田原本町西代(にしんだい)地区



特定都市河川の先進事例

区域指定した地区の概要

川西町唐院(とういん)地区

- ◆ 川西町唐院地区では、大和川などの水位上昇により、毎年のように内水氾濫が発生
- ◆ 令和5年6月豪雨でも内水氾濫が発生し、河川沿いの低地が浸水。この豪雨では家屋浸水は免れたが、家屋周辺の低地(田畑)が開発等により盛土された場合、逃げ場を失った内水が周辺家屋等にまで拡大することが懸念
- ◆ 地域の安全を守るため、内水の遊水機能(貯留機能)を保全していくことに同意が得られた約3.7ヘクタールの田畑を本日、貯留機能保全区域に指定



内水により家屋周辺が浸水



内水氾濫の状況

田原本町西代(にしんだい)地区

- ◆ 天理市庵治町(おうじちょう)周辺の住宅地や田原本町西代周辺の田畑では、寺川の水位により、内水氾濫が発生しやすい
- ◆ 平成29年10月豪雨では大規模な内水氾濫が発生し、78軒の家屋浸水被害も発生
- ◆ 地域の安全を守るため、田畑の遊水機能(貯留機能)を保全していくことに同意が得られた約11.6ヘクタールの田畑を本日、貯留機能保全区域に指定



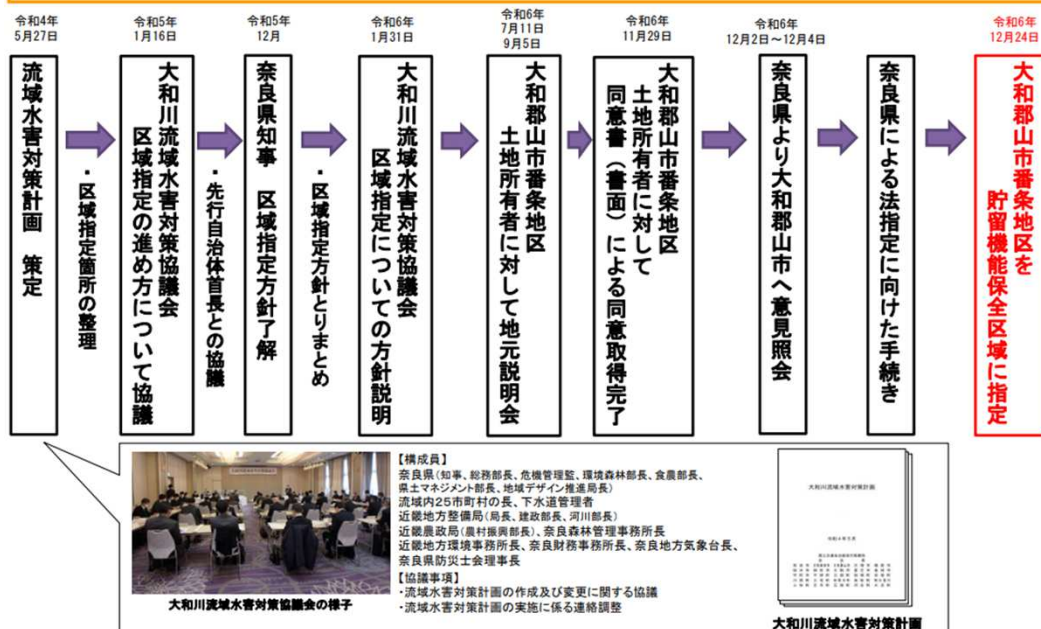
出典: 奈良県HP

流域治水の推進

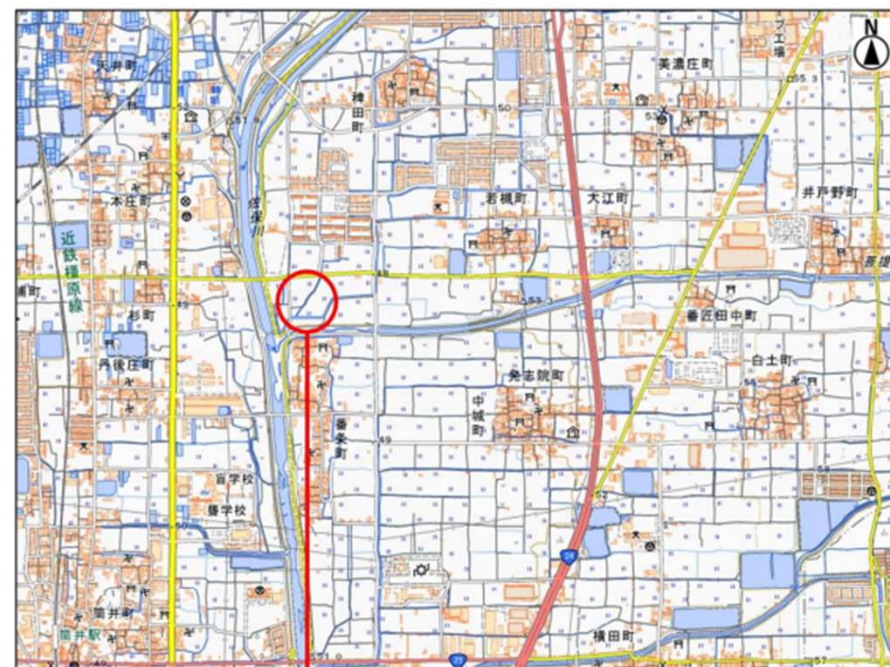
特定都市河川の先進事例

- ◆大和郡山市番条地区では、佐保川の水位上昇により毎年のように内水氾濫が発生
- ◆遊水機能を保全していくことに同意が得られた大和郡山市番条(ばんじょう)地区(約 3.6ha)を市として全国で初めて(川西町、田原本町に続き全国で3例目)貯留機能保全区域に指定
- ◆指定日:令和6年12月24日

大和川流域における貯留機能保全区域指定に係る取組状況



大和郡山市番条(ばんじょう)地区



電子地形図 25000 (国土地理院) を加工して作成

A = 約 3.6 ha



大和郡山市都市計画図を加工して作成

流域治水の推進

本県では、流域治水の推進に向け流域治水シンポジウムひろしま2024を開催

概要

日時:令和6年12月2日(月) 14時00分～17時30分

会場:広島YMCA国際文化ホール(広島市)

構成:

概要説明「広島県における流域治水の取組について」
基調講座「異常気象の時代 天気予報でいのちを守る」
基調講演「流域治水をみんなで着実に、確実に進めるために」
パネルディスカッション

参加者数:約140人 開催後に県HPにて動画配信

シンポジウム開催のチラシ



広島県における流域界



勝丸恭子氏



加藤孝明教授



湯崎県知事



今榮竹原市長



パネルディスカッションの様子



